

# ねこちゃんのご家族さまへ

## ～心臓病について～

猫の心臓病は、犬と比較すると症状が分かりにくいですが、このような症状がみられたら「心臓病」かもしれません。

- ✓ 元気がなく、疲れやすい
- ✓ 安静時呼吸数が多い  
(40～50回/分)
- ✓ 後肢が動かない



猫は心臓病でも症状が出ないことも多いです。

幼齢・若齢で無症状でも、突然心不全を起こすことがあります。そのため、検査で事前に心臓の状態を把握しておくことが大切です。

ぜひ検査を受け、早期発見を目指しましょう。

## Q & A

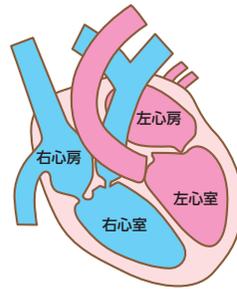
**Q** 猫で多い心臓病は？

**A** ひだいがたしんきんしょう  
肥大型心筋症です。

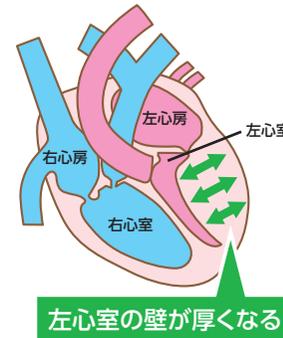
**Q** 肥大型心筋症とは？

**A** 左心室の壁が厚くなり、心臓の動きが低下する状態です。元気に見えても、突然心不全を発症することがあります。

■ 正常



■ 肥大型心筋症



**Q** どのような治療をしますか？

**A** 薬を飲むことで、症状の緩和につながることがあります。状態によっては食事を療法食に切りかえることもあります。

**Q** どんな検査が必要ですか？

**A** 聴診・胸部レントゲン検査・心臓の超音波(エコー)検査・血液検査などを行い、心臓のサイズや機能を確認します。主治医の先生へご相談ください。

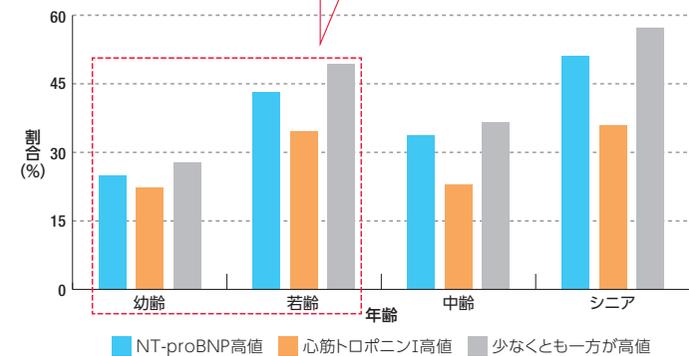
血液検査で心臓の状態を予測することができます。

### 特性の異なる検査項目

ANP	うっ血性心不全のリスクを判定します
NT-proBNP	心筋症の早期発見や弁膜症の重症度判定に利用します
心筋トロポニンI	心筋細胞の傷害(心筋梗塞や心筋炎)を判定します

幼齢期や若齢期にも意外と多い。若いうちから定期的な検査をして早期に発見することで治療の可能性が広がる可能性があります。

● 猫における年齢別心臓検査異常値率\*



\* 2024年4月～2025年3月に健康診断として富士フィルムVETシステムズ株式会社へ依頼された心臓検査NT-proBNP、心筋トロポニンIの結果より。幼齢:0～2歳、若齢:3～5歳、中年齢:6～8歳、シニア:9～15歳。参考基準範囲を上回った値を異常値としています。



ねこちゃんと楽しく豊かな生活を送るために、年に1～2回は動物病院へ行き、健康診断を受けましょう!

【監修】大塚駅前どうぶつ病院 心臓メディカルクリニック 院長 堀 泰智 先生  
FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

富士フィルム VETシステムズ株式会社  
<http://fvs.fujifilm.co.jp>